

外国人従事者育成のための指導者テキスト

目 次

はじめに

第1章 清掃の心得

第1節 清掃の目的	1
第2節 ビル清掃の5原則	2
第3節 作業の分類	3
第4節 ビルの4つの区域	3
第5節 マナー	5

第2章 清掃の基礎

第1節 汚れの種類	6
第2節 各場所に見られる汚れの種類	7
第3節 基本的な作業の進め方	8
第4節 各種作業法	11
第5節 洗剤の基本知識	12
第6節 床維持剤（ワックス）の基本知識	14

第3章 清掃器具について

第4章 清掃機械について

第5章 ビルの建築材料

第1節 床材	22
第2節 壁仕上げ材	24
第3節 外装仕上げ及び窓まわり材	24

第6章 廃棄物の処理

第1節 廃棄物処理	26
-----------	----

第7章 労働災害

第1節 災害の種類と年齢による発生状況	28
第2節 発生状況から判る原因と対策	29
第3節 事例による安全作業とポイント	29
第4節 その他注意を要する事故例	31
第5節 災害発生の仕組みと安全教育	32

第8章 関係法規

第1節 建築物における衛生的環境の確保に関する法律	33
第2節 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	33

付録 基本作業の要点

(1) 各器具の作業のポイント	34
(2) 弾性床清掃作業のポイント	50
(3) ガラス面洗浄作業のポイント	57
(4) トイレ日常清掃のポイント	62

第1章 清掃の心得



<指導のポイント>

単に決められた通り清掃作業を行うだけでなく、清掃を行う目的と意義を理解していなければ、作業結果に影響が出てくること。

清掃作業の技術だけではなく、作業周期（日常、定期、臨時または特別）で作業の内容の違い、基本的なビルの区分を理解すること。

また、従事者のマナーも利用者にあたえる影響が高いため遵守すること。

清掃作業は、決められた通り行うだけでなく、清掃を行う目的と必要性を理解して、清潔で衛生的なビルの提供を心がけること。

第1節 清掃の目的

清掃作業をすることで、利用者に気持ちよく、安全に利用していただくことができ、また、ビルを美しく保ち、長持ちさせることにつながる。

1. 衛生環境の確保

ほこりや汚れの除去により、微生物、ハエやゴキブリなどの害虫の発生を抑え、快適で衛生的な環境を維持する。

2. 美観の維持

汚れによる建材の劣化を防いだり、床維持剤（ワックス）を塗り、見た目の美しさを維持することで、美観の低下を防ぐ。

3. 保全性の寄与

ほこりや汚れの除去により、建材の劣化を防ぎ、ビルの延命を図る。

4. 安全性の確保

汚れにより転倒や転落事故、設備が故障しないよう適切に除去し、利用者の安全性を確保する。

第2節 ビル清掃の5原則

建材を知る………建材がどのような性質をもっているのか？
汚れを知る………建材についての汚れはどのような汚れなのか？
洗剤を知る………汚れをとるためにどのような洗剤を使ったらよいか？
作業の方法を知る………どのような用具を用いてどのような手順で行うのか？
保護膜をつける………建材の保護や、汚れを防止するためにどのような保護膜を選択するか？

1. 建材を知る

私たちが清掃を行う対象は、主として建材である。建材は構造材と仕上げ材等に分けられるが、対象とするのはビル内外の仕上げ材である。そして、トイレ便器などいくつかの建築設備、および机などの什器・備品なども含まれる。

これらは種類も多く、形状や性質も異なり、汚れの付着のしかたもそれぞれであり、清掃の対象となる建材の特徴や性質を理解することが、ビル清掃の出発点といえる。

2. 汚れを知る

ビルの利用によって、作業の対象となる建材にはどんな汚れが付着するのか。すでに付着した汚れはどんな性質のものなのか。それがどんな状態で付着しているのか。それを知ることによって、建材から取り除くための洗剤や作業方法の選択が可能になる。

3. 洗剤を知る

建材に付着した汚れを除去するためには、洗剤その他の化学的な力が必要なのか、必要な場合はどのような洗剤その他の薬剤が適しているのかを判断し、選定する。

＜建材－汚れ－洗剤＞の関係は非常に密接であり、汚れが除去できる洗剤があっても、その洗剤が建材を傷めるのであれば使用できない。ビル清掃の役割は、建材の機能を長期にわたって保たなければならないため、洗剤の適合・非適合は重要な課題となる。


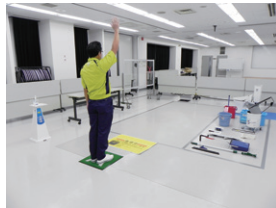






4. 作業の方法を知る






＜建材－汚れ－洗剤＞の関係で、洗剤の選定後、どんな道具を用いて、どのような手順で作業を行うのか選択することになる。必ずしも適切な方法は一つであるとは限らないが、業務として清掃作業を行う場合は、次の3つの要素が重要である。

- ・成否（その作業が適切に実施できるか否かということ）
- ・安全（その作業は建材や人、環境にとって安全に実施できるか否かということ）
- ・やりやすさ（その作業はやりやすく効率的に実施できるか否かということ）

基礎級

基本作業

	番 号	1
	題 目	自在ぼうきの使い方
	実習のねらい	室内掃き
	使用資機材	自在ぼうき（45cm幅） 伸縮式柄、文化ちり取り 毛かき
作 業 の 要 点		ポ イ ン ト
1 作業開始及び作業終了の合図は、大きな声ではっきりと言う。		
2 養生マットの上で、柄の長さを顎から目の高さに調整する。		
3 養生マットの上で自在ぼうきをセットする。		
4 腰を曲げず自然な姿勢で前かがみにならないように構える。		
5 壁側（巾木）の反対の手をのせて、柄の先端に親指を上にして握る。 下方の手は側面で、反対の手で先端を持つ。 下方の手は、腰のあたりにする。押え掃きで行う。		
6 壁際から離れて立ち、側面から中央に掃き寄せる。		
7 1回掃くごとに、毛先についたごみを、その都度落とす。 8 掃きながら前に進む。その際に逆手になってはいけない。 柄と身体が離れすぎない。		

作 業 の 要 点	ポ イ ン ト
9 入り口から壁際に沿ってそって掃き、その後、奥から入口方向に掃く。	
10 掃く場所が変わった時、必要に応じて持ち替える。 11 ほうきの使う面は、最後まで同じ面を使用する。両面を使用しない。 12 ごみの上は歩かない。 13 掃いたごみを1箇所集める。 14 集める方向の手が先端で、反対の手を下方に添える。 15 その場にほうきを置き、ちり取りを取りに行く。 16 ちり取りは、入り口を背にして構える。 17 毛先を1/3程度、ちり取りの中に入れるようにする。ちり取りを後ろにずらしながら取る。	 
18 取り残しがないか確認する。	
19 毛かきは低い位置で使う。毛先のほこりを周囲に飛ばさない。	
20 柄を元の長さに戻す。	